ブアシー・タマサック研究員（ラオス）

私は、ラオス・厚生労働省社会福祉局国家防災事務所(NDMO)で勤務しており、災害情報に関わる支援とコミュニティベースでの防災プロジェクトの調整を行っています。アジア防災センター(ADRC)には、今年の7月から12月までの6ヶ月間、客員研究員として勤務することになっており、この貴重な機会に日本の防災システムについて学ぶとともに ADRC のスタッフとラオスの防災情報を共有できればと思っています。帰国後は、引き続き、ラオス政府で防災行政実務に携わっていきたいと思っております。

ラオスが、世界の中の開発途上国の一つである原因は、主に土地問題、自然災害、ペスト、環境悪化、農業生産のための水不足などが挙げられます。不発弾（UXO)汚染もまた、一つの要因となっています。

ラオスはまた、メコン川下流域に位置していることから、上流域の水量が増加する時期の 5 月から 9 月にかけて洪水が起こりやすくなります。2001 年に起きた洪水では、4.2 万 ha にもおよぶ農業地域への被害が、また 2002 年には 4.3 万 ha に被害をもたらしました。

同国政府は、このような自然災害による被害に対処するために、1999 年 8 月に国家防災委員会（NDMC）を設立し、防災政策の決定や 23 の省庁をまとめる調整役としての機能をはたすことになりました。この NDMC は、州や区、村など地域レベルの事務所もあります。NDMO は、NDMC の事務局としての役割を担っており、ラオスにある防災機関や政府機関、国連、国際 NGO 間の協力を推進しています。

NDMO が現在行っている主要プログラムやプロジェクトとしては、被災地の人々の防災能力向上プログラム、メディアを通じた意識啓発向上・教育プログラム、そして早期警報情報の伝達プログラムなどです。

NDMO はまた、ADRC はむろん、国連世界食糧計画(WFP)、ケア・インターナショナル、Concern Worldwide 等とも連携して活動を行っています。